

東京オリンピック・パラリンピック競技大会選手村ビレッジプラザ 整備における県産木材の提供について

1 「日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～」の概要

- ・ (公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 (以下「組織委員会」という。) では、全国の木材で一つの建物 (ビレッジプラザ) を作ることで、オールジャパンの大会参画を実現し、各地の木材を建物の様々な箇所に使うことで多様性と調和を表現するプロジェクトを創設した。
- ・ このプロジェクトに必要な木材は、公募で決定した 42 事業協力者 (63 自治体) から無償提供され、岩手県は棟単位での事業協力者に応募、選定され、アカマツ集成材約 37 m³、カラマツ集成材約 31 m³、カラマツ合板約 5 m³の合計約 73 m³を提供した。
なお、県内の自治体では、宮古市が部材単位の事業協力者に選定されている。

2 選手村ビレッジプラザについて

- ・ ビレッジプラザは、メディアを通して多くの人目にふれる選手村の代表的な施設であり、チーム歓迎式典、メディアセンター、店舗等が配置される木造平屋建て (延べ床面積約 6,000 m²) の仮設建築物となっている。
- ・ 岩手県の木材は A 1 棟 (延べ床面積約 300 m²) に使用されており、A 1 棟は全て岩手県産木材で建設され、施設の中でも映像による露出が多い「メディアセンター」となる予定である。

【選手村ビレッジプラザのイメージ】



外観イメージ



内観イメージ



A 1 棟 構造イメージ

3 本県の取組について

(1) 経緯

- ・ 県は、平成30年5月に組織委員会と木材提供に関する協定を締結するとともに、県内林業関係団体と協働による取組体制を構築した。
- ・ 同年11月には、県内の素材生産事業者・製材業者・合板製造事業者等の協力体制の下、具体的な協議を進め、伐採する森林認証林や加工にあたる工場等を決定した。
- ・ 同年12月から平成31年3月にかけて伐採を行い、その後、木材の製材加工を開始した。



アカマツの伐採作業



カラマツの製材加工

(2) 木材製造加工現場の報道機関への公開

令和元年7月に、アカマツ集成材の製造を開始し、製造現場をマスコミに公開した。

ア 実施日 令和元年7月31日（水）

イ 場所 協同組合遠野グルーラム（遠野市）

ウ 取材等 民放テレビ局2社、ケーブルテレビ1社で放送され、一般紙1社、林業業界紙2社の新聞に掲載された。



提供木材の紹介



アカマツ集成材の製造

(3) 県産木材出発式とビレッジプラザへの木材出荷

令和元年10月に、初便の出荷にあわせて、県と東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との共催により県産木材出発式を開催した。

ア 実施日 令和元年10月7日(水)

イ 場所 遠野市森林総合センター

ウ 参加者 内閣官房東京オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会推進本部事務局をはじめ約80名が出席した。

エ 出荷回数等 ビレッジプラザへの出荷は5回に分けて行い、令和元年11月19日の最終便到着をもって、全ての搬入が終了した。



保和衛 岩手県副知事の挨拶



関係者によるテープカット式



木材の東京への出荷初便



参加者による記念撮影

4 今後の予定について

- ・ ビレッジプラザは令和2年4月に完成予定となっている。
- ・ オリンピック・パラリンピック競技大会の終了後には、木材は提供者に返却され、各地域において大会参画のレガシーとして活用することとしている。
- ・ 県では、後利用について検討委員会を設置するとともに、市町村等の意向も確認しながら進めていくこととしている。